



# SPELT

November 2023. Vol.12, No.1

実用英語教育学会

# NEWSLETTER

目次

巻頭言

実用英語教育学会 会長 釣 晴彦

第12回 実用英語教育学会 (SPELT) 研究会 報告  
(2023年7月1日 Zoomによるオンライン開催)

ビジョン3-16: 新時代に必要なコミュニケーション力を問う

## 1. 実践報告

『「TBL 教育の経験と成果」“会話から対話へ”』

渋谷 奈緒美 先生 (札幌東高校)

(報告 実用英語教育学会 石川 希美)

## 2. 講演

『新時代に必要とされるコミュニケーターの条件』

小山 克明 先生

(グローバル・リーダーシップ・コーチング協会シニア・ファシリテーター)

(報告 実用英語教育学会 竹内 典彦)

## 3. お知らせ

## 巻頭言

### 実用英語教育学会 第12回研究会を終えて

実用英語教育学会会長 釣 晴彦  
北海道文教大学 教授

7月1日の第12回研究会は、Zoomで無事終わることができました。オンライン研究会にもかかわらず多くの方々に参加していただき感謝申し上げます。

今回の研究会には、グローバル・リーダーシップ・コーチング協会シニア・ファシリテーターの小山克明氏を迎えて「新時代に必要なコミュニケーション力」という題で講演をしてもらいました。講演の前に、札幌東高等学校の渋谷奈緒美先生の教育実践の発表をして頂き講演の内容をさらに深めることができました。

渋谷奈緒美先生は、生徒が一人一人自主的に学ぶ Task-Based Learning を授業中に常に意識して実践されています。グループワークやペアワークを用いて、協働学習による達成感を学習者が味わえることは、第二言語習得を促進させるモチベーションでは重要な要素です。奈緒美先生は、いつも全力で生徒に向かい合い英語教育を実践しておられる先生です。

小山克明氏は、TOEICに関する著書も多数あり、語学教育を通してグローバル時代のコミュニケーション力はどうか、実践を行い活動を精力的に行っている人です。いろいろ示唆を与えられた講演でありました。

文部科学省が2023年7月31日に「2023年度の全国学力・学習状況調査」を公表しました。4年ぶりに行われた中学校の英語問題は、記述式が2問ありました。行事や部活動など学校生活の中から紹介したいものについて、文章で表現する設問があります。この正答率が6.3%で北海道は全国を1.1ポイント下回り、「話す」は、12.4%、環境問題に関する自分の意見を説明する設問の正答率は4.2%でした。いろいろと課題が見えた調査結果です。

今回の実用英語教育学会のテーマ『新時代に必要なコミュニケーション力』は、まさにこの課題に対して考えさせられる内容でした。

家庭でもタブレット端末など ICT 教材の活用で、どんな環境整備が必要であり、どんな家庭学習の習慣化が必要になってくるか、検討していかなければならない時代になりました。小、中、高、大で教壇に立つ会員が、なぜ外国語教育をするのかというビジョンを相互に明らかにして、つながり、情報や手法を共有して、さまざまな領域と水準における英語教育の多様な実践と研究を行い、共に学び、歩んでいけましたら幸いです。今後も皆様のご指導、ご支援を一層賜りますようお願い申し上げます。

## <実践報告>

### 「TBL 教育の経験と成果」“会話から対話へ”

渋谷 奈緒美 先生（北海道札幌東高等学校）

高校、専門学校、大学での経験を積み重ね、最終的に高校教員の職に戻りました。私にとって、Task-Based Learning（以降 TBL）を導入する決断を下すきっかけは、専門学校で教えていた際、以前の指導法とは大きく異なる、積極的な姿勢を持つ生徒たちに出会ったことでした。従来の“チョーク&トーク”の方法では、生徒たちに「間違ったらどうしよう」という不安を抱かせ、英語への自信喪失や嫌悪感を植え付けてしまっていたように感じました。現在の勤務校で取り入れている3年生の英語総合を中心に、TBLの実践についてお伝えします。

3年生は、個人活動（スピーチ・プレゼンテーション）からグループ活動（研究・討論、探究活動、ドラマ、ディベート）に取り組んでいます。受験に支障をきたすのではないかと懸念も聞かれますが、生徒自身からのアンケート評価では、むしろ好意的で肯定的な反応があり、妨げとを感じる声はありませんでした。生徒が自分にとって活動の必要性を感じると、学習意欲が高まり、「自主的な学習」「自走」が始まります。さらに、最近では職員会議で評価され、『探究的な学習』に取り組む仲間の教師たちからも理解を得るようになりました。特に英語の分野で TBL は非常に適していると感じています。

教師の役割において、授業の成功は何よりも「準備」にかかっています。常に学習者に何が必要かという視点で考えます。TBL では「対話」が鍵を握ります。これは生徒同士だけでなく、教師と生徒の間でも継続的に行われます。対話4段階（儀礼的な対話、討論、内省的な対話、生成的な対話）が示すように、内省的な対話では相手の発言に真摯に耳を傾け、経験、感情、価値観などを理解しようとしています。そして、生徒を「共に学ぶ仲間」として支え、彼らの興味と関心を促進する役割を果たします。

どの教師でもどんな学校でも同じことができるのかという質問がありますが、特に大規模校では複数の教師が関与することがあるため、教師同士が連携し、視点を合わせることも不可欠です。そのため校内の can-do リストは大きな役割があると感じます。教師と生徒のコミュニケーションだけでなく、教員同士の対話能力を向上させることが重要だと考えています。

（文責 石川）

## <講演>

### 『新時代に必要とされるコミュニケーターの条件』

小山 克明 先生

(グローバル・リーダーシップ・コーチング協会シニア・ファシリテーター)

---

#### 講演者プロフィール

---

(一般社団法人) グローバル・リーダーシップ・コーチング協会シニア・ファシリテーター、ガンガー総合研究所研修部門長、日本大学商学部非常勤講師（ビジネス英語）。早稲田大学卒業（生体機能学専攻）、ペンシルベニア州立テンプル大学大学院教育学修士課程（TESOL 英語教授法）修了。外資系日本法人創設メンバーとして、主に国際・営業・教育部門の責務を担い、取締役国際部長、常務取締役教育部長、代表取締役、国際理事を歴任。京セラ稲盛和夫元名誉会長塾頭の若手経営者団体「盛和塾東京」元創設世話人メンバー。外資系退社後、(一社) グローバル・リーダーシップ・コーチング協会及びガンガー総合研究所の活動に参画。大手・中堅企業のエクゼクティブ対象イノベーション・リーダー養成講座、営業部門長向けリーダーシップ養成研修、次世代リーダー育成研修、グローバル人材育成管理職対象英語研修に従事。TOEIC®L&R テスト満点取得経験をベースに大学向けテキストなど TOEIC 対策書籍を執筆。主著:TOEIC 対策教材初の音読実践を導入し、多くの 900 点突破者を生み出した『新 TOEIC® テスト 900 点突破 20 日間特訓プログラム』（アルク）、『3 週間で攻略 TOEIC®L&R テスト 730 点!』（アルク）、『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC®L&R TEST:INTERMEDIATE』（金星堂）等。現在、グローバル・リーダーシップに関する著作を執筆中。



小山先生は札幌ご出身ということで、北海道ともご縁があります。今回、小山先生には「**新時代に必要とされるコミュニケーターの条件**」という演題でお話しいただきました。オンラインでのご講演でしたが、新時代を迎えて様々なイノベーションが起こる中、たいへん有益な情報が盛りだくさんの、貴重な学びの時間となりました。参加者からもとても高い評価をいただきました。以下、ご講演の内容を紹介します。

#### 1. リーダーシップについて

◎グローバル・リーダーシップ・コーチング協会（以下 GLC）の定義：「リーダーシップとは、自分の言葉でヴィジョンを語り、自他にポジティブな影響力を発揮する行為」

\* 「自他に」つまり「自分」が含まれていることが特徴

リーダーシップの目的 (GLC) : 「最終的に、人が自ら主体的に行動することである」

#### ◆リーダーシップの5要諦とは？

(5 Fundamentals of Leadership)

- ①ヴィジョン力 (Visionary Power) : 人々のやる気の根源となる未来を描く力
- ②戦略力 (Strategic Power) : 正確な現状を把握して、明確な未来の実現に向かう力
- ③真のコミュニケーション力 (Genuine Power of Communication) : 人を主体的に行動させる力
- ④実行力 (Power of Execution) : ビジョン・戦略・コミュニケーションを徹底する力
- ⑤人間力 (Personal Integrity) : 倫理観・品格・影響力の源泉となる力

\* この中で最も重要なものは「人間力」である

#### ◆GLCのグローバル・リーダーの定義：

「グローバル・リーダーとは、リーダーシップの5要素であるヴィジョン力・戦略力・コミュニケーション力・実行力・人間力が、どの国でも、どの環境でも、どのような文化背景でも、発揮できるリーダーのことである」

#### ◎リーダーシップの5要諦

5 Principles: What Successful Leaders Keep on Developing

「5つの要諦」藤井義彦著 日本生産性本部

#### ◎Today's Agenda :

1. どのような世界に今私達は生きているのだろうか？そして、どのような方向へ世界は変化していこうとしているのだろうか？
2. VUCA、グローバリゼーション、ダイヴァーシテイ、インクルージョン、高齢化、加速度的技術の融合時代に私達に求められる能力とは？
3. 新時代において私達はどのようなコミュニケーターになることが求められているのか？

#### 2. 未来に向けての最初の問いかけ「あなたの人生の経営者は誰か？」

◆あなたの人生を経営しているのはだれであろう？

その答えはあなた自身である。株式会社田中の社長は田中誠、商品は田中誠、企画・開発部長は田中誠、営業部長は田中誠、人事部長は田中誠である。あなたの人生の経営者は、上司でもなく、会社や組織でもなく、親でもなく、友人でもなく、社会でもない。一見自明の理であるが、この認識を持っている人々は極めて少ない。私達は、人生を他責にする傾向が強い。うまくいかない人生は、他人のせいにしがちである。しかし、自分の人生の経営者はあなた自身なのである。すべては自責である。あなたの人生の経営者はあなた自身という認識をまず持ち、自分自身で、自らの人生を変革していくことが肝要である

#### ◎VUCAの時代に求められる力とは？

- ◆Volatility (変動性)
- ◆Uncertainty (不確実性)
- ◆Complexity (複雑性)
- ◆Ambiguity (曖昧性)

□予測不能で正解が1つではないこれからの時代に必要とされるのは、どのような力だろうか？

◆「2030年全てが加速する世界に備えよ」

◆「The Future Is Faster Than You Think: How Converging Technologies Are Transforming Business, Industries, and Our Lives」

Peter H. Diamandis & Steven Kotler

(NewsPicks Publishing)

◎Exponential Technology に注目！

- ・量子コンピューティング Quantum Computing
- ・人工知能 (AI) Artificial Intelligence \*ChatGPTに「AIとの共存に何が必要か？」と問いかけると、その中の一つに「(AIに対する)感謝」と答えてきた
- ・センサー Sensors
- ・ロボティクス Robotics
- ・仮想現実 (VR) Virtual Reality
- ・拡張現実 (AR) Augmented Reality
- ・3Dプリンティング 3D Printing
- ・輸送ネットワーク Logistics
- ・バイオテクノロジー Biotechnology 等

◎2つの Key word に注目！

◆ Exponential Technology：加速度的な技術

◆ Convergence：融合・収束

◎現在は、まだ Local + Linear

今後は、Global + Exponential

3. Convergence of Technologies の時代に求められる力とは？

◆個々のテクノロジーが進化 Convergence (融合) することで Exponential (急激な、加速度的、指数関数的) 変化が近未来に起きると予測されている。そのとき、人間に求められるのはどのような力だろうか？

◎世界初の AI ヒューマノイド ロボット、ソフィアをご紹介 (トニー・ロビンス)

出典：Youtube Tony Robbins

Sophia (AI ロボット) の活躍：

ソフィア (Sophia) は、香港の Hanson Robotics 社が開発したソーシャルヒューマノイドロボット。2016年2月14日に起動。世界中のメディアに取り上げられた。2017年10月、サウジアラビア国籍を取得し、市民権を得た最初のロボットとなった。2017年11月、Sophiaは国連開発計画初のイノベーションチャンピオンに選ばれ、人間以外で初めて国連の称号を得た。人間に近い外観と挙動で知られている。2018年現在、アーキテクチャにはスクリプトソフトウェア、チャットシステム、一般的な推論用に設計されたAIシステムである OpenCog が含まれている。Sophia は人間のジェスチャーや顔の表情を模倣し、特定の質問に答えたり事前に定義した話題について簡単な会話をしたりできる。Sophia は Alphabet Inc. (Google の親会社) の音声認識技術を使用しており、「時間とともに賢くなるように設計されている」。その音声合成能力は CereProc のテキスト音声合成エンジンによって提供されており、また歌うこともできる。Sophia の知能ソフトウェアは Hanson Robotics によって設計されている。

この AI プログラムは会話を分析し、今後の対応を改善するためのデータを抽出する。Sophia の目の中にあるカメラからの入力をコンピュータビジョンアルゴリズムが処理し、周囲の視覚情報を与える。顔を追ったり、視線を合わせたり、個人を認識することができる。2018 年 1 月頃、Sophia は機能的な脚と歩行能力を持つようにアップグレードされた。CNBC は Sophia の「リアルな」皮膚と 60 以上の表情をエミュレートする能力についてコメントしている。

◎「人間が子供を育てるように AI を育てるのが大切」とソフィア自身が答えている

David Hanson は、Sophia が最終的にヘルスケア、カスタマーサービス、セラピー、教育などの分野で活躍するのに適していると述べている。老人ホームで高齢者の伴侶として、あるいは大規模なイベントや公園で群衆を助けるのに適した Sophia を設計した。彼は、このロボットが最終的には他の人間と十分に交流して社会性を獲得することを望んでいると述べている。Sophia は、社会的行動を模倣し、人間の愛の感情を誘発することができる「社会的ロボット」として販売されている。

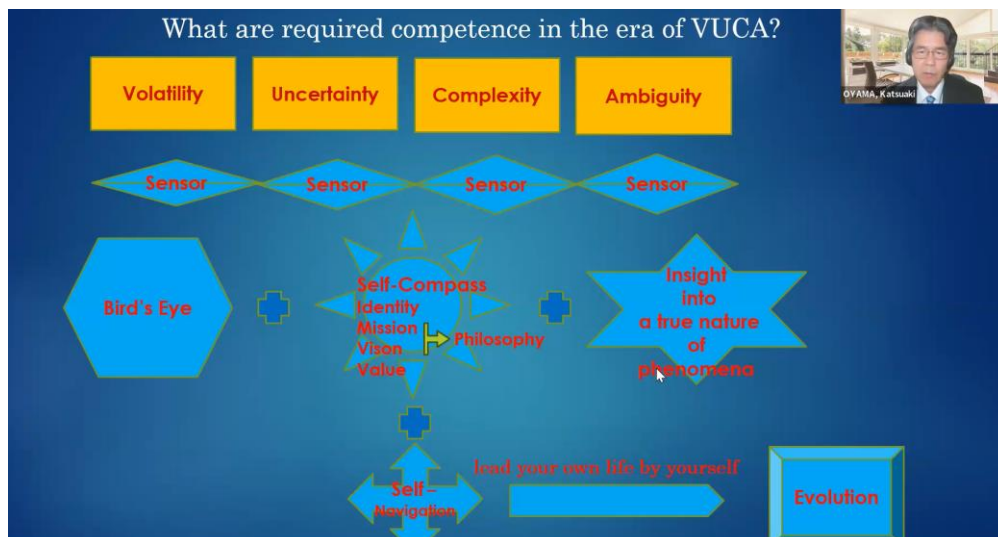
出典:『ウィキペディア (Wikipedia)』

◎Convergence of Technologies の時代に求められる力とは？

- ◆テクノロジー活用能力：活用する側としての IT リテラシー
- ◆AI などのテクノロジーにはない人間独自の力：  
人間が持つ豊かな個性・感性・人間性・創造力・直感力

4. VUCA の時代に求められる力とは？

- ◆ 自分自身の独自の羅針盤 (hold a self-compass) を持ち  
=自分の信念と哲学を持ち (hold own belief and philosophy) を持ち  
=自身の Mission, Vision, Value を持ち
- ◆ 独自のセンサーを使って (equipped with own sensors)
- ◆ 状況を俯瞰し (command a bird's eye)
- ◆ 現象の根底にある本質を見抜き (gain an insight into a true nature of phenomena)
- ◆ 自己を操縦し (self-navigate)
- ◆ 自分の人生を自分自身で進化へと導いていく力である。 (lead your own life by yourself towards evolution)





Globalization is the process of interaction and integration among people, companies, and governments worldwide.

Reference: Wikipedia 2022

Interaction (相互作用) :

→communication

→a wide variety of communications

→a field of infinite correlations (無限の相関関係)

### ◎Globalization (世界化・地球的規模化)

#### Diversity (多様性・相違) & Inclusion (包括) とは？

- ◆グローバリゼーションは、国や地域などの枠組みを越えて、社会、文化、経済、テクノロジーなどの領域において、活動が地球規模に拡大し、変化が生じる現象。世界の一部の地域の異なる要素同士が、地球規模で緊密につながる現象も指す
- ◆ダイバーシティ & インクルージョンは、多様な文化・習慣、性別・年齢、価値観などを有する集合体において、互いに多様性を認め、集合体において受容されること

### 5. Globalization, Diversity, Inclusion & Aging Society の時代に求められる力は何か？

- ◆自分とは何か？自己の identity を確立する (Establish your own identity)
- ◆自分は何のために生きているのか？を探求し続ける (Quest for the purpose of your life)
- ◆自己を活かし輝く (Take advantage of yourself and lead a bright life)
- ◆多様な価値観への理解・共感を示す (Appreciate diversified values and show empathy)
- ◆コミュニケーション力を駆使して人を参画させる (Involve others through true communication)
- ◆他者も活かし、新たな価値を共創する (Take advantage of others and co-create new values)
- ◆つながりを感じる: 個人、社会、組織、会社、国、地球、植物・動物・生物・環境、出来事) (Feel infinite correlation between you and others)
- ◆絆を感じる (Feel bonds with others)
- ◆世界で起こっていることに関心を持つ (Be concerned with world events)
- ◆他者に起こっていることは自分事であると感じる (Recognize that what is happening to others is a part of yourself)
- ◆4つの領域で豊かに生きる: 自分、家族、組織(会社、学校)、社会・環境 (Enrich your individual life, family life, organizational life and social life)
- ◆心身の健康を保つ (Maintain your mental and physical health)
- ◆自他に肯定的な影響力を生み出す (Make positive Influence on yourself and others)
- ◆日々内省する (Introspect every day)
- ◆常に変革を生み出し、新たな次元を開拓していく (Keep on promoting innovation and opening up new dimensions)
- ◆一生、学び続け、自己を磨き続け、日々進化する (Learn for the whole life, develop yourself and evolve every day)

◎新たな時代をサバイバルし、進化していくためには、総合的な人間力を持つコミュニケーターであることが求められる



- ◆これまで分析してきたこれらの求められる要素を総合した力こそ、未来をサバイバルし、進化し続けるためのコミュニケーターの力と考えられる
- ◆GLCのリーダーシップの定義：「リーダーシップとは、自分の言葉でヴィジョンを語り、自他にポジティブな影響力を発揮する行為」

◎リーダーシップの目的：「最終的に、人が自ら主体的に行動することである」

◎見過ごしがちなリーダーシップの2つの側面を意識しよう

- ◆リーダーシップには2つの側面がある。他人に対するリーダーシップと自身に対するリーダーシップである

①External Leadership: フォロワーに対するリーダーシップ。フォロワー（部下、同僚、顧客、社会、上司など）の自分の外側に対するリーダーシップ

②Internal Leadership: 自分自身に対するリーダーシップ。自分の中にたくさんの自分がある。自分の人生のヴィジョンを持ち、戦略を立て、自分の中の自分を鼓舞し、実行する

- ◆自分自身に対するリーダーシップが発揮できていなければ、フォロワーはついてこない。影響力の源泉である「実行力」「人間力」を身に付けていくための唯一の方法は、自分自身に対してリーダーシップを発揮することである。リーダーシップは、自己とフォロワーに対して、ポジティブな影響力をもたらすものであり、全てを自責で捉え、自問自答し、自分自身に対するリーダーシップを発揮し、あなた自身が自分を変化させていくことでその影響力は拡大していく

◎誰もが人生のリーダーになれる

- ◆誰もがリーダーになれるのか？リーダーは天性のものか、或いは人工的に育成されるものか？著名な経営コンサルタントで社会生態学者であり、マネジメントの父といわれているピーター・ドラッカーはその答えを『プロフェッショナルの条件』で次のように述べている。「それは習得できる能力である」、「成果をあげる人に共通しているのは、自らの能力や存在を成果に結びつけるうえで必要とされる習慣的な力である」、「成果をあげるには、成果をあげるための並の能力で十分である」。つまり、誰もが自分がリーダーになれると自覚し、行動し、習慣化することで、リーダーになることが可能なのだ

第1ステップ：リーダーになれるという自覚を持つこと

第2ステップ：リーダーになると決意すること

第3ステップ：自己のMission, Vision, Valueを定めること

第4ステップ：内省を繰り返すこと

第5ステップ：行動する

第6ステップ：行動を習慣化すること

◎コミュニケーション・リーダーへの成長は、日常的に自己対話（自己内省）を重ね、意識的に行動し、積み重ねていく事で可能になる。

6. 新たな時代のコミュニケーション・リーダーになるために

□まとめ：新時代に必要とされるコミュニケーターの条件とは？

→自己を自らリードするリーダーシップを発揮するコミュニケーター

## ◎新時代に必要とされるコミュニケーターの条件

- ①自己内省力：自分とは何か？を問い続け、identity を確立。個人としての主体性、信念、哲学を持つ
- ②考え抜く力：コンセプチュアル・スキル、常識に囚われない力
- ③多様性を認める力：本質的に人間は同じだが、顕在的な違いを否定・判断せず、まず理解する（ノーベル賞受賞者を輩出する研究室は多様性がある）
- ④開拓・挑戦する力：イノベーション挑戦力、創造力
- ⑤発信力：語学力（Input & Output）\*ChatGPT は情報が多いので英語で利用すべき
- ⑥Assertive Communication 力：相手を尊重し自己の主張を効果的に伝えるコミュニケーション力
- ⑦人を巻き込む力：コミュニケーション力（相手を主体的に行動させるコーチング的コミュニケーション力）
- ⑧異文化での交渉力
- ⑨ IT・情報・金融・グローバル経済・政治・地政学リテラシー力：グローバル化を踏まえ、膨大な情報を読み切る力
- ⑩サイエンス・リテラシー力：サイエンスを理解し使える力
- ⑪スピード力：時代の要請に基づく意識変革と仕事のやり方の変革、個人の生産性向上

## おわりに

Let us co-create a better planet. Let us start a new journey today and live brightly, merrily, and light-heartedly. Thank you for your attention. (文責 竹内)

## お知らせ

### ◆研究会の開催日（予定）について

第13回研究大会は2024年2月17日（土）に開催することを予定しております。今後、研究会で取り上げたいテーマなどがありましたら、是非ご意見をお寄せください。

### ◆会員募集について

実用英語教育学会では、新会員を募集しております。年会費は4,000円です。会員の皆様は、研究会や大会の参加費が無料になる他、口頭発表および論文発表の発表資格を得ることができます。詳しくは、実用英語教育学会ホームページ (<http://spelt.main.jp/>) をご覧ください。

### ◆編集後記

今回の研究会では、「AIが発展していく中、人間の教員でなければできないことは何か」、を考えさせられました。今後も会員の皆様と一緒に考えていければ、と思います。(杉浦)

実用英語教育学会

編集: *SPELT Newsletter* 編集委員 (杉浦理恵)

発行: 2023年11月30日

事務局: 〒065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 石川希美 研究室内

TEL: 011-742-1651(代) Fax: 011-742-1654(代)

Email: [spelt.info@gmail.com](mailto:spelt.info@gmail.com) \*を@にしてください。